

栃木県立真岡女子高等学校 JRC部

高校生ボランティア・アワード2022

「地域への貢献・連携・継続」

活動概要

◆平日の放課後は校内で定期活動◆

- ①「そらまめ食堂」(障がい者が働く食堂)
 - ・週1回の訪問
- ②クレープ販売
 - ・月2回そらまめ食堂のクレープを校内で販売
- ③大型カレンダー制作
 - ・市内6箇所、2か月分を届ける
- ④ソフトコンタクトレンズケース回収
 - ・週1回収



◆年1~数回のいろいろな活動◆

- ⑤図書館プロジェクト
 - ・年3回開催
 - ・障がいの理解啓発を目的に主催障がい者就労事業所と市立図書館との合同イベント
- ⑥ハンドケア
 - ・地域の人々の疲れを癒すためにハンドマッサージを行う
- ⑦ママ&パパcafé
 - ・国際結婚家族交流会で子どもたちと遊ぶ
- ⑧マサイビーズ
 - ・ケニアの人が手作りしたネックレスなどの販売を通してケニアにある学校の支援につながる
- ⑨石巻交流
 - ・石巻市災害復興住宅の住民の方と文通などで交流
- ⑩募金活動
 - ・NHK海外たすけあい募金
- ⑪地域の街おこし企画に参加
 - ・真岡すきすきシェアクラブ
 - ・真岡まちを作ろうプロジェクト



図書館プロジェクト



大型カレンダー制作



マサイビーズ販売



ハンドケア

「地域との繋がりを力に ～高校生だからできること～」

◆私たちが活動の目的としていることは、障がい者を理解して一緒に何かをすること、学校がある地域を盛り上げること、住民同士が交流できるお手伝いをする事、東日本大震災で被災した方の支援を続けていくこと、その人の話に耳を傾けること、JRCの研修で身に付けたリーダーシップや講習会で得た知識・技術を活動に活かすこと、社会に関心を持ってニーズに気づくこと、などです。

◆高校生だからできる支援、活動がある！それは、高校生のやる気や行動力を、地域の人には温かく受け入れてくれるものだ気づいたから。それは、先輩方が築いて育ててくれた信頼があるから。なので、ただボランティアをしてあげるのではなく、させていただくことに感謝して、大切につないでいきたいと思えます。私たちはJRCの態度目標である、「気づき・考え・実行する」を日々心がけながら、みんなで地域の人のためにできることを探して、実行に移しています。



「繋」

◆目標は、「人と人をつなぐこと」

◆私たちは、活動を通して交流を持つだけでなく、長く交流を続けることを大切にしています。

障がいのある人と繋がる	そらまめ食堂
地域と繋がる	真岡すきすきシェアクラブ
子どもたちと障がいのある人が繋がる	図書館プロジェクト
被災地の人と繋がる	石巻災害復興住宅訪問
これまでの繋がり	大型カレンダー制作
海外の人と繋がる	マサイビーズ



◆講習会による技術の習得◆

誰かを助けたいから
身につけたいものがある！

- ①読み聞かせ講習会
 - ・市立図書館から講師の先生をお招きして絵本の読み聞かせを学びます。
- ②日本災害時健康生活支援講習
 - ・被災した人の健康を保ち、ストレスを和らげるために、ハンドケアやリラクゼーションの方法を学びます。
- ③日赤救急法講習会
 - ・心肺蘇生法、AEDの使い方などを学びます。
- ④炊き出し講習会
 - ・ポリ袋クッキングで、ご飯やパンケーキなどいろいろな料理を学びます。



「真岡女子高校JRC部のつながりをさらに広めて」

私たちは、人の役に立ちたい！という思いで、この部活動に入りました。しかし実際は、勉強が忙しかったり、保護者の送迎ができなかったりで活動は制約されてしまうのですが、平日の放課後や休日を利用して地域の活動から、県内外に足を運び、さまざまな活動を通して老若男女たくさんの人と交流を深めています。それは地域を巻き込んで、障がい理解や防災など、限りなく広がる可能性を感じます。

私たちのボランティア活動は地元だけでなく被災地の方々にも役立つことはできないかと思うようになり、宮城県石巻市の災害復興住宅への訪問を7年前から始めています。一番の目的は、心と心をつなぐこと、ほんの少しでも、支えるような関わりを持つことです。年に1度の訪問ですが、その間は手紙や写真を送っての交流をしているので、離れていても心は近くにあります。再会は、互いに感慨深いものとなります。交流から見える新たなニーズで次の関わり方を考えます。新型コロナウイルスの影響で訪問に行けていませんが、イチゴジャムと手紙を送ったり、メッセージボードを送って交流を続けています。

ボランティア活動を通して人とつながり地域とつながると、高校生の私たちでも誰かの役に立てている喜びを感じ、また多くのことを学びます。人のつながりに限界はありません。私たちはこれからもつながっている実感の持てる活動を継続し、そのつながりを全国に広げていきたいと考えています。



真岡女子高等学校JRC部 プロフィール
昭和55年より青少年赤十字に加盟し活動している。地域住民や、市の公共施設の交流とともに、10年以上継続している活動に加えて、地元での新たな活動を開拓し、地域の人と繋がりながら広く進化をみせている。特に、障がい者就労のNPOが運営する食堂(そらまめ食堂)での交流と手伝いの活動により、障がい者への理解が深まったことで、障がいのことをもっと世の中に分かってもらいたいという強い気持ちが生まれ、市立図書館とで始めた障がい理解啓発イベント、「図書館プロジェクト」では企画運営を行い活動が目ざされ、周囲から評価をいただけるようになった。毎年、県役員の輩出や、JRC全国研修に推薦されるなど、栃木県内で活動の盛んな高校の一つである。現在部員は1~3年で75名、校内の部活で一番部員数が多い。